

地域振興のための方策の推進とツーリズム

——空間的側面に関わる論点——

Policy Implementation for Regional Development and Tourism : Issues in Relation to Spatial Aspects

森 信 之*

MORI Nobuyuki

This paper considers relationships between policy implementation for regional development and tourism with a focus on issues in relation to spatial aspects. On the basis of previous studies, it shows important aspects of policy implementation for regional development which concern fundamental characteristics of regional development issues, regional centralities and interrelationships. With regard to the approach to the formation of more effective policies, it shows significant issues relating to the effectiveness based on the integration and the diversification of those fundamental characteristics, various regional centralities, and their interrelationships. Finally, it considers issues relating to relationships between policy implementation for regional development and tourism focusing on the linkages between the integration of those characteristics and tourism, and the relationships between the diversification of those characteristics and tourism.

キーワード：地域振興 (regional development)、ツーリズム (tourism)、方策 (policy)、空間的側面 (spatial aspects)

1. はじめに

地域振興のための方策とツーリズムとの関わりについては、実践という観点から重要となる推進を焦点とするそうした方策の具体化を促すことによって、地域振興により効果をもたらすための仕組み、取組みの構築、具体化に結びつけることが可能になると考えられる。

そのためには、政策推進、ツーリズムとの関係に基づく地域振興のための方策の具体化、より効果的な方策の推進への展開に関して森 (2013) が提示した、政策推進において地域振興という観点から重視すべき方策、特に、その効果を高めるための異なった特性をもつプロセスの作用¹⁾をふまえ、生活や経済、環境などの広範な領

域、主体に関わる政策を含めた地域振興のための方策と空間との関係に着目し、空間的観点からみた望ましい方策、その構築のプロセスに関して推進を焦点とする構築、具体化を図るとともに、それらをより効果的な推進のための取組みにつなげることが重要となる。

特に、重視すべきツーリズムの特性と地域振興のための方策との関係に関して提示される、包括性、複合性、また、ツーリズムの特性を焦点とした地域振興各々に関わる2つの重視すべき論点 (森 2016) をふまえ、地域振興のための方策の推進に関して中心、拠点となる、あるいは、地域振興の対象となる地域において全域的な効果をもたらすという観点からとらえられる中心性、拠点性をもつ地域との関係に着目した空間的側面に関わる論点を焦点とすることによって、地域振興において柱とな

*大阪観光大学観光学部

る内容、また、それを実現するための課題といった地域振興において重視すべき内容、課題に適合した方策を明確にすることが必要になると考えられる。

以上をふまえ、本稿では、まず、地域振興において重視すべき内容、課題に関わる基盤としての特性と結びついた地域振興のための方策の推進において重視すべき側面、次いで、それらと関係づけたより有効な方策の具体化に向けての取組みに関して焦点となる論点を提示し、各々について考察する。また、そうした論点との関係を軸とした地域振興のための方策の推進とツーリズムとの関わりに関する論点を提示し、各々について考察する。

2. 地域振興のための方策の推進において重視すべき側面

地域振興のための方策の推進については、地域振興の対象となる地域、また、それを構成する各地域が、地域振興において重視すべき内容、課題に関わる広範な領域、主体といった点からとらえられる基盤としての特性をもつという点に着目することが不可欠となる。さらに、そうした地域振興において重視すべき内容、課題に関わる基盤としての特性と先の中心性、拠点性との関係をとらえることによって、地域振興のための方策の推進をより効果的に促す仕組み、取組みの構築、具体化への論点の展開が可能になると考えられる。

こうした点、また、地域振興の対象となる地域、それを構成する各地域が形成する地域間関係、地域振興において重視すべき内容、課題に関わる基盤としての特性相互の関係、さらには、空間計画 (spatial planning) に関して、Allmendinger et al. (2015) が提示する特定の社会的な空間構築を示す「ソフト・スペース」(soft spaces)、Allmendinger et al. (2016) が提示するパートナーシップの特性などに基づく異なった役割、特性をもつサブリージョン (sub-region) についての基本的な考え方をふまえることによって、次の4つの地域振興のための方策の推進において重視すべき側面が提示される。

第1は、地域振興において重視すべき内容、課題に関わる特性が地域間関係において一体化するとともに、各地域が個々に中心性、拠点性をもつ側面である。

基盤としての特性が一体化することによる同質性は、地域振興の対象となる地域とそれを構成する各地域が直結することを基本とする関係の形成を促すこととなり、したがって、それに基づく地域振興において重視すべき

内容、課題に関わる取組みに関しては、各地域を包括した全域的な取組みと各地域における取組みとの一体化、各々の取組みによる効果の一体化、あるいは、各地域における取組みによる効果の全域的な拡大を可能とすることが有効になると考えられる。

この点については、全域的な観点からみた地域特性、また、各地域でとらえられる地域特性をふまえることが不可欠となる。特に、各地域間における効果に関しては、個々の地域を基本とする関係の形成に加えて、特定の地域の連携を図り、それと個々の地域との関係、さらには、複数の特定の地域の連携を含めた各地域間関係の形成を視野に入れた具体化が不可欠となり、それらによってより効果的な取組みを促すための方策の推進に結びつけることが重要になるといえる。

第2は、地域振興において重視すべき内容、課題に関わる特性が地域間関係において一体化する一方、各地域における中心性、拠点性が異なった特性をもつ側面である。

基盤としての特性が一体化することによる同質性については先の第1の側面と同様指摘されるが、この側面では、各地域における中心性、拠点性の特性が異なり、特に、特定の地域が相対的に優位なそれらをもつことによる関係の形成に着目する必要がある。これに関しては、そうした特定の地域が形成する関係が軸となるため、それに基づく地域振興において重視すべき内容、課題に関わる取組みは、全域的な効果を一体的にもたらしことが不可欠になるといえる。

したがって、各地域を包括した全域的な取組みにおける中核的な機能、それがもたらす効果の具体化を図ることがまず重要となるが、次いで、全域的な、また、各地域における取組み、効果に適合したそうした特定の地域とその他の地域との関係を明確にすることが必要となる。そのためには、そうした特定の地域、その他の地域各々における取組みを基本としつつ、それらを集約した全域的な取組みを促す、あるいは、そうした特定の地域とその他の地域との間における効果的な関係を見出し、それを中心とする取組みを促すといった異なった地域間関係に基づく方策の推進が有効になると考えられる。

第3は、地域振興において重視すべき内容、課題に関わる特性が多様化し、錯綜した特性間、地域間関係において、そうした特性が一体化した地域がもつ中心性、拠点性が相対的に優位となる側面である。

ここでは、一体化した特性をもつ中心性、拠点性が核となって形成される関係を基本とすることとなり、地域

振興の対象となる地域と核となる地域とが直結するとともに、一体化した特性とは異なった特性をもつ地域との関係、また、それらを含めた全域的な関係の形成が焦点となる。特に、一体化した特性とは異なった特性の存在については、第 1、第 2 の側面における基盤としての特性の同質性に関する内容に加えて、中心性、拠点性をもつ地域とは異なった特性をもつ地域との関係に基づく取組み、その効果が重視される。

この点については、そうした中心性、拠点性をもつ地域の特性とは異なった特性をもつその他の地域との関係における、地域振興への効果をもたらす多様なプロセスを見出すことが重要になると考えられる。すなわち、異なった特性との関係において、まず、地域間の個別の段階的なプロセスを軸とすることに関しては、核となる地域からその他の地域との関係を介して全域的な、また、各々の地域における効果をもたらすための仕組み、次いで、核となる地域とそれがもつ特性とは異なった特定の特性をもつ地域との連携を中心とするプロセスを軸とすることに関しては、そうした連携を形成し、その他の地域との関係に結びつけることによって、特に全域的な効果、核となる地域における効果を重視しつつ地域振興への効果として複合化させるための仕組み、さらに、核となる地域以外の地域間の連携が効果をもたらすための重要な機能を担い、核となる地域とそれらとの関係が中心となるプロセスを軸とすることに関しては、そうした連携が核となる地域との関係と結びつきながら効果をもたらす仕組みを具体化すること、また、地域振興において重視すべき内容、課題に関わる効果をもたらすための取組みを中心に、地域振興のための複合的な効果を持続的にもたらすことが可能な仕組みにおいて軸となる取組みを構築することが方策の推進において重要になると考えられる。

第 4 は、地域振興において重視すべき内容、課題に関わる特性が多様化し、錯綜した特性間、地域間関係において、そうした特性が一体化した地域を含めた各地域における中心性、拠点性が異なった特性をもつ側面である。

ここでは、各地域において各々異なった特性に基づく複合的な地域振興への効果をもたらす一方、一体化した特性をもつ地域がもたらす効果を中心とし、各地域における個々の効果とともに、一体化した特性が全域的な効果をもたらすことを可能にする関係の形成が焦点となる。各地域における個々の地域振興の推進を含むことに関しては、地域振興において重視すべき内容、課題との

関わりが、全域的な、また、各地域における特定の地域間関係を組み合わせた関係を形成し、そこで軸となる関係を基に地域振興により効果をもたらす、あるいは、それらの相互関係においてより有効性を高めるための段階設定を行うといった地域振興への効果を焦点とするより効果的なプロセス、それを作用させるための仕組みの具体化が重要になると考えられる。

地域振興において重視すべき内容、課題に関わる異なった特性については、全域的な観点からそうした特性をもつ各々の地域における中心性、拠点性が、地域振興の対象となる地域総体に関する地域振興の推進において中核となることを必要とする。全域的に、また、各地域において実現すべき地域振興、そのための取組みの推進に関しては、地域振興において重視すべき内容、課題に関わる特性に関して核となる地域を中心とし、異なった特性をもつその他の地域との関係へと結びつけていくことによってより効果的な展開を図る、あるいは、異なった特性、それらをもつ地域相互の関係において、核となる地域とその他の地域との関係を多様化させ、異なった特性をもつ特定の地域間関係、それらと核となる地域との関係を基により効果的な取組みとしての再構築を促す、さらには、異なった特性、それらをもつ地域各々、それらの相互関係を核として、地域振興において重視すべき内容、課題に関わる特性、それをもつ地域へと関係を形成していくことを視野に入れることによって、地域振興への効果をもたらすプロセスをより多様化させるための仕組み、取組みが必要になると考えられる。

3. 方策の具体化に向けての論点

地域振興のための方策の推進において重視すべき側面については、方策の具体的な推進を焦点として、より有効な方策の具体化に関係づけていくことが重要になると考えられる。そのためには、そうした重視すべき側面に関して、より有効な方策の具体化を図るための軸となる内容を明確にし、それを中心に、より実践的で実行可能な取組みからなる仕組みの構築を視野に入れることが必要となる。

また、そうした具体化を進展させることについては、地域振興において重視すべき内容、課題に関わる特性が地域振興の対象となる地域において基盤となる一方、各地域がそれと一体化した、あるいは、それとは異なった特性をもつ、また、中心性、拠点性をもつ地域とその他の地域が存在するといった点に関して、それらの相互関

係をより多様化させ、錯綜させることになる。そのため、より有効な方策の具体化を図るための軸となる内容については、地域振興のための方策の推進において重視すべき先の4つの側面間の相互関係を基に見出し、それらを中心に仕組み、取組みの構築に結びつけることが有効になると考えられる。特に、そうした軸となる内容を見出すためには、個別に提示した重視すべき側面に関して、方策の推進のための具体的な取組みの内容、それに関わる主体、あるいは、取組みの方法に適合させることが焦点となる。したがって、重視すべき側面間の相互関係においては、連携、統合といった点の具体化をふまえて、柔軟に、また、重層的に各側面を関係づけることが重要になるといえる。

こうしたこと、特に、地域振興のためのより有効な方策の具体化を図るための軸となる内容、方策の推進において重視すべき側面相互の関係づけの重要性をふまえることによって、より有効な方策の具体化に向けた取組みに関して焦点となる次の2つの論点が提示される。

第1は、地域振興において重視すべき内容、課題に関わる特性の一体化を基盤とし、中心性、拠点性、あるいは、それらの異なった相互関係を軸とする取組みの有効性である。

この点については、まず、地域振興の対象となる地域を構成する各地域がもつ中心性、拠点性に関して、一体化した特性をもつそれらの包括的な関係を形成する一方、異なった特性をもつそれらの関係を形成し、両者間の相互関係を基本とすることが焦点になると考えられる。異なった特性をもつ中心性、拠点性に関しては、地域振興において重視すべき内容、課題に関わる特性の一体化が進展することによって、それらが相対的に優位な地域とその他の地域との関係が重要となり、先の両者間の相互関係においては、包括的な関係がもたらす有効性との連関を重視して、相対的に優位な地域との関係がもたらす有効性を高めるための取組みを構築することが必要になるといえる。

また、先の両者間の相互関係については、各々の関係の形成において空間的観点からみた多様性をもつことに着目することが重要となる。すなわち、包括的な関係においては、その有効性を高めるための仕組みを創出することが不可欠であり、そのためには、各地域間の関係を段階的に形成することによって全域的に包括していくプロセスを促す、あるいは、特定の地域間の関係を基本として、有効性を高める条件に適合したそれらの相互関係を組み合わせることによって、有効性を高めるための複

数の核をもつ関係を全域的に形成する、さらには、ここでの相対的に優位な地域を核とする地域間関係を軸とし、それが両者間の関係において先導的な作用を促すことによって、軸となる関係、それを補完する関係、それらを相乗的により効果的にするための新たな関係の形成へと結びつけるといったことを可能にする取組みの具体化を図ることが重要になると考えられる。

第2は、地域振興において重視すべき内容、課題に関わる特性の多様化を基盤とし、異なった特性をもつ中心性、拠点性、あるいは、それらの間の錯綜した相互関係において、異なった特性間でもたらされる効果を指向することを軸とする取組みの有効性である。

この点については、まず、地域振興において重視すべき内容、課題に関わる異なった特性に関して、一体化した特性をもつ地域を含む各地域間で異なった関係の有効な組み合わせを明確にし、それらを基に各々が中心となる関係を具体化することによって、より効果的な取組みへと結びつけることが焦点になると考えられる。また、一体化した特性をもつ地域の中心性、拠点性に関しては、その他の地域がもつ異なった特性との相互関係において、特定の特性間の関係がそれに基づく地域間関係の形成の基本となり、それに直接関わる地域を中心に、ここでの特定の特性に適合した個々の具体的な取組み、それらから構成される統合的な取組みを構築すること、あるいは、特定の特性が結びつくことによる複合的な特性が基本となり、それに関わる各地域、それらの相互関係による地域間関係を軸として、一体化した特性を含む複合的な特性に適合した諸地域における多様な取組みを組み合わせることによって、より効果的な取組みの構築を指向することが重視される。

特に、異なった特性をもつ地域の中心性、拠点性については、各々に基づく地域間関係を軸とする取組みの重要性に着目することを不可欠とし、一体化した特性をもつ地域を中心とする諸関係に関わる取組みに関して、個々の地域における両者の連携、統合、地域間におけるそれらが、全域的な観点に加えて異なった空間スケールでの有効性を生み出し、高めるための仕組みを創出することが重要となる。そのため、一体化した特性をもつ地域を中心とする地域間関係の緊密化と連動した広域化、あるいは、狭域化がもたらす効果、また、異なった特性の複合化と結びついた広域化が軸となることがもたらす効果、さらには、特定の特性各々、それらの相互関係を柱とすることに適合した多様な空間的指向性を伴う総体としての効果各々を焦点とした取組みの構築を促すこと

が必要になると考えられる。

4. ツーリズムとの関わり

地域振興のための方策の推進とツーリズムとの関わりについては、そこで重視すべき取組みに関して、先の方策の具体化に向けた取組みに関して焦点となる論点に関係づけつつ、方策に適合したツーリズムに着目した具体化を図ることが重要となる。そのためには、そうしたツーリズムに関して空間的観点から重視すべき内容を中心とし、それらと取組みの具体化との関係から方策の推進に結びつけていくことが必要になると考えられる。

こうした点について、三重県における取組みをみると、まず、森 (2013) で取り上げた「みえ県民ビジョン」に関しては、三重県戦略企画部企画課 (2016) が策定されており、森 (2004, 2005, 2006, 2008, 2009, 2010, 2011, 2012, 2014, 2015, 2016) で取り上げた東紀州地域に関する「東紀州地域の活性化」、あるいは、ツーリズム、観光に関する「観光の産業化と海外誘客の促進」が「施策」として示されている (表 1)²⁾。また、

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に関しては、三重県、東紀州地域を構成する各市町におけるツーリズムに関する内容が表 2 のように例示される。ここでは、地域振興において特に重視すべき特性をもつ地域、それを構成する個々の地域、それらの相互関係、あるいは、それら各々がもつ広域的な関わりにおいて推進すべきツーリズムを焦点とし、空間的観点からみた多様な地域振興への効果を具体化するとともに、それを生み出し、高めるための柔軟なツーリズム推進を可能とする取組みへの展開の可能性が示される。これらをふまえ、先の方策の具体化に向けた取組みに関して焦点となる論点との関係を軸とし、方策に適合したツーリズム³⁾に着目することによって、地域振興のための方策の推進とツーリズムとの関わりに関する次の 2 つの論点が提示される。

第 1 は、地域振興において重視すべき内容、課題に関わる特性の一体化との連関を軸とするツーリズム推進のための取組みである。

ここでは、推進すべきツーリズムに必要な特性の具体化へと方策の推進に伴う内容の広範化が必要となるが、そこでは、相対的に優位な中心性、拠点性をもつ地域を

表-1 「みえ県民ビジョン・第二次行動計画」における「東紀州地域の活性化」、「観光の産業化と海外誘客の促進」

<p>1. 施策 252 東紀州地域の活性化 〔取組方向〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のコーディネーターとしての役割を担う東紀州地域振興公社を最大限活用し、地域と一体となって、総合的に、観光振興、産業振興およびまちづくりを推進する。 ・東紀州地域は、世界遺産である熊野古道をはじめ、自然、歴史、文化など観光に生かせる優れた資源を有しており、集客交流拠点施設である熊野古道センターや紀南中核的交流施設も効果的に活用することで、集客交流の取組を推進し、交流人口の拡大と地域経済の活性化を図る。 ・高速道路網整備の進展などにより、東紀州地域の基幹産業である第一次産業を活性化するチャンスが生まれていることから、一次産品を生かした高付加価値を進めるとともにその販売促進を図る。 <p>〔主な取組内容 (基本事業)〕</p> <p>25201 地域の自立に向けた環境整備 25202 地域資源を生かした集客交流 25203 地域資源を生かした産業振興</p>
<p>2. 施策 332 観光の産業化と海外誘客の促進 〔取組方向〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊勢志摩サミット開催の好機を生かし、三重県を世界の人びとが 1 度は訪れたいブランド観光地、日本人が何度でも訪れたい定番の観光地にグレードアップする。 ・観光産業を裾野の広い産業ととらえ、「食」を中心としたサービス産業など多様な産業と連携した展開を図るとともに、地域をけん引する産業として観光関連産業を育成することで、「観光の産業化」を推進し、来訪者の観光消費額の増加につなげる。また、「観光地経営」の視点に立った持続可能な観光地域づくりを県内各地に展開するために、「日本版DMO」を推進する。 ・アジアの旅行者に加え、欧米諸国、富裕層の旅行者誘致のため、旅行博でのPR、欧米諸国メディアの取材受入れ、エージェントへのセールスやゴルフツーリズム等に取り組むとともに、リピーター確保につなげるため、体験型・着地型観光の充実を図る。 ・三重県に適したMICE開催モデルの分析等を進め、MICE誘致・開催促進を図る。 ・三重県版バリアフリー観光を普及し、県内におけるバリアフリー観光の受入れ環境の充実等、障がい者や高齢者・外国人でも安心して訪問できる三重県の魅力ある観光地づくりを進めるとともに、新たな需要喚起や観光客の多様なニーズに応えられる人材の育成に取り組む。 <p>〔主な取組内容 (基本事業)〕</p> <p>33201 持続可能な観光地づくり 33202 インバウンド倍增戦略の展開 33203 伊勢志摩サミットの好機を生かしたMICE誘致 33204 人にやさしい観光の基盤づくり</p>

出典：三重県戦略企画部企画課 (2016: 134, 135, 174, 175) により作成。

表-2 三重県、東紀州地域の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」におけるツーリズムに関する内容（例）

<p>1. 三重県</p> <p>○基本的な取組方向</p> <p>①【働く】：しごとの創出 〔取組内容〕・観光の産業化</p> <p>②【暮らす】：地域資源の活用による交流人口の拡大 〔取組内容〕・戦略的なプロモーションの推進 ・自然、歴史・文化、食、スポーツなど、地域資源を活用した交流促進 ・南部地域市町への支援 ・サミットの開催を契機とした地域の活性化</p> <p>2. 尾鷲市</p> <p>○「しごと」と「ひと」の好循環作り 基本目標 1 安定した雇用を創出する：世界遺産と食を中心とした観光の振興</p> <p>①着地型観光ツアー・各種イベント等の支援・実施 〔主な取組内容〕・着地型観光ツアーへの支援 ・各種イベントへの支援・実施 ・市内観光施設の維持管理</p> <p>②情報発信の充実 〔主な取組内容〕・まちかどHOTセンターの活用促進 ・山岳トレイルの情報発信 ・尾鷲観光マップ、尾鷲ポスターの作成 ・外国人旅行者向けホームページの開設 ・尾鷲体験モニターツアーの推進 ・まちの駅ネットワーク尾鷲への支援 ・南三重地域への周遊滞在の促進</p> <p>3. 熊野市</p> <p>○基本目標：過疎少子高齢化への対応：基本施策 1 人口流出抑制対策：基本的な取組方向：基本的方向 3 観光及びスポーツによる集客交流 ・地域資源を活用した観光振興 ・国内外からの集客交流の拡大 ・スポーツ交流の推進</p> <p>4. 紀北町</p> <p>○基本目標 1 元気な地域づくり：施策の展開：情報発信による集客の推進 〔主な取り組み〕・情報発信の強化 ・広域的な観光の振興</p> <p>○基本目標 2 住みたくなる地域づくり：施策の展開：交流の推進 〔主な取り組み〕・スポーツ合宿・スポーツ交流の充実 ・新たな交流の展開</p> <p>5. 御浜町</p> <p>○基本戦略：地域経済（産業）の活性化戦略：地場産業の活性化 〔重点戦略事業〕・道の駅周辺整備事業 〔関連主要施策（後期基本計画）〕・集客交流産業の振興（観光交流資源の充実・活用、地域と連携した体験型交流の充実、PR活動の推進）</p> <p>6. 紀宝町</p> <p>○基本目標 4 交流で賑わいあふれる「紀宝」 〔主な施策〕・交流機会の創出 ・観光の振興</p>
--

出典：三重県（2016）、尾鷲市（2015）、熊野市（2015）、紀北町（2016）、御浜町（2016）、紀宝町（2016）により作成。

核とするツーリズム推進への取組み、それを担う主体形成を促し、その他の地域との間において軸となる関係に基づいてツーリズム推進の内容を明確にすることが重視される。そのため、特にツーリズムの対象となる地域資源との関わり、それに基づくツーリズム推進のために必要な既存の、あるいは、新たに創出すべき機能、それらと直接的、間接的に結びついた施設、サービス、また、ツーリストの属性、行動といったことを焦点とするツーリズム推進のための方策、そこにおける効果的な取組みに関して構築すべき基本的な仕組みを具体化することが重要になると考えられる。

これらに関する空間的観点からの具体化においては、異なった空間スケールとの関わりをもつ各地域におけるツーリズム推進に関して、グローバルな関わりを含む広域性と直結した相対的に優位な中心性、拠点性をもつ地域を核とし、その他の個々の地域、あるいは、地域間における連携、統合との関係を基本とする方策、取組みの

具体化を促すとともに、そうした関係に適合した各地域におけるツーリズム推進の異なった内容をさらに詳細に明確化、具体化することが有効になるといえる。

また、そうしたツーリズムに関わる広域性に関しては、ツーリズムの対象となる地域資源との関わりに基づき、その他の個々の地域、あるいは、地域間における連携、統合を中心とすることへの着目が重要となる。そのため、そうした地域が形成する関係において、特定の特性をもつ中心性、拠点性と結びついた地域資源との関わり、それらに基づくツーリズム推進の異なった内容を焦点として、地域振興の対象となる地域における全域的な効果を生み出し、高めるための取組みを軸とする仕組みの構築、具体化を図り、ツーリズム推進を中心とする地域振興のための方策の推進につなげていくことが必要になると考えられる。

第2は、地域振興において重視すべき内容、課題に関わる特性の多様化がもたらす異なった特性各々、ある

いは、それらの相互関係との関わりに基づくツーリズム推進のための取組みである。

ここでのそうした特性の多様化については、まず、異なった特性、それらの相互関係に基づいてとらえられる焦点となるツーリズムに関して、各地域、あるいは、地域間における効果的な関係、それらの組み合わせに適合した取組みによる多様な効果を生み出し、高めるための仕組みを具体化することが必要になると考えられる。異なった特性をもつ各地域においては、地域振興のための方策、それに適合した機能、効果をもつツーリズムを焦点とする方策が推進されることになるが、それらをふまえた推進すべきツーリズムに関しては、個々の地域、あるいは、地域間関係において効果をもたらすための柱となる内容を中心に、異なった特性間の多様な関係に適合させることが可能な柔軟性をもつ仕組みを構築し、それによる効果を生み出し、高めるための取組みを軸とする方策を推進することが重視される。

これらに関する空間的観点からの具体化においては、ツーリズム推進と直結した異なった特性間の関係と空間スケールとの関わりに関して、複数の地域を含む異なった広域性に着目することが不可欠となる。そのため、グローバルな関わりを含む各々の広域性に応じた異なったツーリズム推進の具体化において、地域資源との関わり、あるいは、推進体制、推進方法、それらに関わる主体形成といった重視すべき点に基づく多彩なツーリズムの特性を特に具体的な推進において有効な実践性を重視しつつ明確にすることが重要になるといえる。また、異なった特性をもつ中心性、拠点性は、より効果的なツーリズム推進のために必要な条件との間において、多様で重層的な相互関係を形成することを不可欠とする。したがって、地域振興のための方策の推進においては、地域振興自体のあり方との関係を視野に入れ⁴⁾、ツーリズム推進に適合した中心性、拠点性、それらを含めた多様な地域特性と柔軟に結びついたツーリズム推進の地域的展開の方向性、実現すべき内容をふまえつつ、ツーリズム推進を中心とする空間的観点から有効な仕組み、取組みの統合的な構築、具体化を促すことが必要になると考えられる。

5. おわりに

本稿では、地域振興のための方策の推進とツーリズムとの関わりに関する空間的側面に関わる論点について、まず、地域振興において重視すべき内容、課題に関わる

基盤としての特性と結びついた地域振興のための方策の推進において重視すべき側面、次いで、それらと関係づけたより有効な方策の具体化に向けての取組みに関して焦点となる論点を提示し、各々について考察した。また、こうした方策の具体化に向けた取組みに関して焦点となる論点との関係を軸とし、方策に適合したツーリズムに着目することによって、地域振興のための方策の推進とツーリズムとの関わりに関する論点を提示し、各々について考察した。

今後は、地域振興のための方策の推進に関わるより包括的な仕組み、取組みの構築、具体化を図るための焦点となる側面に着目し、それらとツーリズムとの関わりを軸とした論点に結びつけることが課題となる。

【注】

- 1) 第1に、政策推進において柱となる特定の内容を指向する方策としての位置づけが相対的に優位であり、それが軸となって政策全体としての多様な効果を連鎖的に高めるプロセス、第2に、政策推進において柱となる内容が複数存在し、各々が相互に連関しつつも異なった指向性をもつ方策各々およびそれら相互の連関関係が軸となって、より効果的な新たな政策展開を生み出すプロセス、第3に、多様な内容の相互の連関が政策推進を促し、それが包括的な指向性をもつことによって広範な効果を生み出す方策に関して、そうした連関や指向性の新たな形成が政策推進に伴ってその内容を柔軟に変化させることを可能とするプロセスである(森 2013)。
- 2) 本計画は、「第一次行動計画の取組の成果と課題を検証するとともに、時代の環境の変化などを見極めつつ」、「みえ県民力ビジョン」が掲げる「基本理念を具体化するための取組を示す中期の戦略計画」であり、計画期間は2016年度から2019年度までとされている(三重県戦略企画部企画課 2016: 5)。
- 3) この点に関しては、社会を中心とする関係論的アプローチ、また、社会的プロセスとの結びつき、政府の戦略的役割に関わる実践などの今後の研究へのインプリケーション(Krutwayscho and Bramwell 2010)、デスティネーション・ガバナンスの構造とプロセス、メタガバナンスの有効性(Spyriadis et al. 2011)、多様なステークホルダーの関わりに関して有効なマネジメントのフレームワーク(Waligo et al. 2013)などに関わるツーリズムの推進体制、推進主体、推進方法を中心とする方策の具体化において重視すべき点をふまえる必要がある。
- 4) この点は、サブナショナルスケールの内発的地域政策の実効性(宮町・山本 2016)、地域振興を促す効果をもたらす計画推進における内発性との関わり(森 2010)、地域振興を促す作用、ツーリズム推進を中心とする方策の構築に関わる内発的作用(森 2012)を含め、ここでの方策の特に実践を焦点とする包括的な論点への展開を

重視することにつながる。

【文献】

- 尾鷲市 (2015): 『尾鷲市まち・ひと・しごと創生総合戦略』
(<https://www.city.owase.lg.jp/cmsfiles/contents/0000013/13273/senryaku.pdf>, 2016年10月20日閲覧).
- 紀宝町 (2016): 『御浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略』
(<http://www.town.kiho.lg.jp/life/kikaku/1-kiho-sogosenryaku.pdf>, 2016年10月20日閲覧).
- 紀北町 (2016): 『紀北町まち・ひと・しごと創生総合戦略』
(2016年9月改訂) (http://www.town.mie-kihoku.lg.jp/hpdata/_images/Media/gyosei/information/senryakuvision/mhssouseisougousenryaku02.pdf, 2016年10月20日閲覧).
- 熊野市 (2015): 『熊野市まち・ひと・しごと創生総合戦略』
(<http://www.city.kumano.mie.jp/main/main/kumanosimatihitosigotosouseisougousenryaku27.pdf>, 2016年10月20日閲覧).
- 三重県 (2016): 『三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略』
(平成28年3月改訂版) (<http://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000624161.pdf>, 2016年10月20日閲覧).
- 三重県戦略企画部企画課 (2016): 『みえ県民カビジョン・第二次行動計画』.
- 御浜町 (2016): 『御浜町まち・ひと・しごと創生総合戦略』
(http://www.town.mihama.mie.jp/yakuba/kikaku_ka/sougousenryaku.pdf, 2016年10月20日閲覧).
- 宮町良広・山本健兒 (2016): 国土緑辺部における地域政策と内発的發展: 九州を事例として、『大分大學經濟論集』
67: 155-182.
- 森信之 (2004): 地域發展のための地域的条件—ツーリズムと地域經濟に基づく論点—、『観光研究論集』(大阪明浄大学観光学研究所年報) 3: 13-27.
- 森信之 (2005): 地域變化と計画システムの再構築—地域經濟構造とツーリズムを中心とする考察—、『観光研究論集』(大阪明浄大学観光学研究所年報) 4: 33-50.
- 森信之 (2006): 地域振興の構造—空間とツーリズムに基づく視点—、『観光研究論集』(大阪観光大学観光学研究所年報) 5: 113-126.
- 森信之 (2008): 地域振興のメカニズムと計画、『大阪観光大学紀要』 8: 47-53.
- 森信之 (2009): 地域振興におけるツーリズム推進の空間特

- 性、『大阪観光大学紀要』 9: 33-39.
- 森信之 (2010): 地域振興とツーリズムに関わる計画推進、『大阪観光大学紀要』 10: 167-178.
- 森信之 (2011): 環境保全とツーリズム推進—地域的視点を中心にして—、『大阪観光大学紀要』 11: 93-100.
- 森信之 (2012): 地域振興と地域的關係—ツーリズム推進を中心とする考察—、『大阪観光大学紀要』 12: 87-94.
- 森信之 (2013): 地域振興のための政策推進とツーリズム、『大阪観光大学紀要』 13: 101-108.
- 森信之 (2014): 環境保全と地域振興—ツーリズムに関わる方策に着目して—、『大阪観光大学紀要』 14: 91-100.
- 森信之 (2015): 地域振興におけるツーリズム推進のための方策—地域經濟に関わる論点—、『大阪観光大学紀要』 15: 63-70.
- 森信之 (2016): 地域振興のための方策におけるツーリズムの特性—地域的視点に基づく論点—、『大阪観光大学紀要』 16: 55-63.
- Allmendinger, P., Haughton, G., Knieling, J. and Othen-grafen, F. (2015): "Soft spaces, planning and emerging practices of territorial governance", In Allmendinger, P., Haughton, G., Knieling, J. and Othen-grafen, F. eds. *Soft spaces in Europe: re-negotiating governance, boundaries and borders*, Routledge: 3-22.
- Allmendinger, P., Haughton, G. and Shepherd, E. (2016): "Where is planning to be found? Material practices and the multiple spaces of planning", *Environment and Planning C: Government and Policy*, 34: 38-51.
- Krutwaysho, O. and Bramwell, B. (2010): "Tourism policy implementation and society", *Annals of Tourism Research*, 37: 670-691.
- Spyriadis, T., Buhalis, D. and Fyall, A. (2011): "Dynamics of destination governance: governance and metagovernance in the composite industrial environment of destinations", In Laws, E., Richins, H., Agrusa, J. and Scott, N. eds. *Tourist destination governance: practice, theory and issues*, CAB International: 187-202.
- Waligo, V. M., Clarke, J. and Hawkins, R. (2013): "Implementing sustainable tourism: a multi-stakeholder involvement management framework", *Tourism Management*, 36: 342-353.